

事務事業名	芦安活性化対策育英奨学金貸付事業		所属部局	教育委員会	単位番号	12063										
			所属課室	教育総務課	課長名	樋口敏明										
	☐ 実施計画事業		所属担当	教育政策推進担当	担当者名	朽原伸幸										
基本政策	基本計画	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策	23	学校教育の充実	事業区分	01	一般	1	0	0	1	0	2	0	7	0	0	3
施策	36	「生きる力」を育む学校教育の推進		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業											
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業											
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度)		法令根拠	芦安村活性化対策育英奨学金に関する条例												
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)												
	芦安地区に居住する高校生に対する通学費の助成的な奨学金制度。合併後10年で芦安村条例を見直すこととしているので、それまでは継続していく事業。月額1万円を高校在学中の3年間貸与、高校卒業まで芦安地区に居住すると返還額の半額を免除その後5年間定住すれば全額免除となる。			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)												
				貸付金 960												
				計 960												

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	芦安地区高校生への貸与
23年度活動予定	同上
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
芦安地区に住む高校生	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
芦安地区の若者の定住率向上	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
芦安地区の人口減少に歯止め	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 貸与者数	人
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 貸与額	円
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 高校卒業者の定住率	%
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 人口減少率	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	193	279	100	100	100	100	
		一般財源	千円	767	960	1,200	1,200	1,200	1,200	
	事業費計 (A)			千円	960	1,239	1,300	1,300	1,300	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	24	24	24	24	24	24	
		人件費計 (B)	千円	107	107	95	95	95	95	0
	(A)+(B)			千円	1,067	1,346	1,395	1,395	1,395	0
活動指標			人	1.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	
対象指標			円	960.0	960.0	960.0	960.0	960.0	960.0	
成果指標			%							
上位成果指標			%							

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	芦安村時代平成8年から条例施行され、南アルプス市が引き継いだ
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	制度について再考する時期
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	地域からは継続を他地区からは、不公平の意見あり

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	全額免除のため経過措置の徹底
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	芦安活性化対策育英奨学金貸付事業	所属部	教育委員会	所属課	教育総務課
-------	------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 芦安地区の高校生の通学費は高額となることから、過疎対策も兼ねての奨学金貸与は結びついている
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 芦安地区限定であることから、過疎活性化対策との関連で見直しが必要な部分もある
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 対象が芦安地区の高校生すべてであり、選考はしない。制度の再構築か南アルプス市奨学金との統合なども考えるべき
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 芦安村条例のままなので、条例改正ができず困難
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 芦安枠を設けることが可能 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 地域から反対の強い働きかけ ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 暫定条例を廃止することについて芦安村過疎対策条例と同様に地域等と協議を行うことが必要
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 南アルプス市奨学金と統合した場合、芦安枠をつくり対応できるが、卒業後の減免については市奨学制度の趣旨に反するので、地域の理解を得るのが困難
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 南アルプス市奨学金に統合できれば人件費はなくなる
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 芦安地区限定のため、不公平感はある。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	合併時の暫定措置として残っている芦安村条例を基にしているので、不備も多く早い将来に南アルプス市奨学金制度との統合をすべき

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) (2) 改革改善案について ①芦安村過疎活性化対策育英奨学金に関する条例の廃止について、準備を進める ②地域との協議については、芦安村過疎活性化対策条例との連携も必要 ③南アルプス市奨学金に芦安枠を設ける検討		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ①芦安地域の抵抗感 ② ③		(5) 事務事業優先度評価結果 <table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td>対象外</td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td>対象外</td></tr></table>		成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外																	
成果優先度評価結果	対象外																							
コスト削減優先度評価結果	対象外																							